

P C T

国際予備審査報告

19 AUG 2004

(法第12条、法施行規則第56条)
[PCT36条及びPCT規則70]

出願人又は代理人 の書類記号 H1669-01	今後の手続きについては、国際予備審査報告の送付通知(様式PCT/ IPEA/416)を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JPO3/01960	国際出願日 (日.月.年) 24.02.2003	優先日 (日.月.年) 25.02.2002
国際特許分類(IPC) Int. Cl. G02B 15/16, G02B 13/18		
出願人(氏名又は名称) 松下電器産業株式会社		

- 国際予備審査機関が作成したこの国際予備審査報告を法施行規則第57条(PCT36条)の規定に従い送付する。
- この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 4 ページからなる。
☒ この国際予備審査報告には、附属書類、つまり補正されて、この報告の基礎とされた及び/又はこの国際予備審査機関に対してした訂正を含む明細書、請求の範囲及び/又は図面も添付されている。
(PCT規則70.16及びPCT実施細則第607号参照)
この附属書類は、全部で 7 ページである。
- この国際予備審査報告は、次の内容を含む。
 - ☒ 国際予備審査報告の基礎
 - ☐ 優先権
 - ☐ 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成
 - ☐ 発明の単一性の欠如
 - ☒ PCT35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
 - ☐ ある種の引用文献
 - ☐ 国際出願の不備
 - ☒ 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 22.07.2003	国際予備審査報告を作成した日 16.04.2004	
名称及びあて先 日本国特許庁(IPEA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官(権限のある職員) 森 内 正 明	2V 9222
電話番号 03-3581-1101 内線 3269		

I. 国際予備審査報告の基礎

1. この国際予備審査報告は下記の出願書類に基づいて作成された。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に
応答するために提出された差し替え用紙は、この報告書において「出願時」とし、本報告書には添付しない。
PCT規則70.16, 70.17)

☐ 出願時の国際出願書類

- ☒ 明細書 第 1-2, 4-12, 14-29 ページ、
明細書 第 3, 13 ページ、
明細書 第 _____ ページ、
出願時に提出されたもの
国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
_____ 付の書簡と共に提出されたもの
- ☒ 請求の範囲 第 3, 7-10 項、
請求の範囲 第 _____ 項、
請求の範囲 第 _____ 項、
請求の範囲 第 1-2, 14-22 項、
出願時に提出されたもの
PCT19条の規定に基づき補正されたもの
国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
26.03.2004 付の書簡と共に提出されたもの
- ☒ 図面 第 1/23-23/23 ページ/図、
図面 第 _____ ページ/図、
図面 第 _____ ページ/図、
出願時に提出されたもの
国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
_____ 付の書簡と共に提出されたもの
- ☐ 明細書の配列表の部分 第 _____ ページ、
明細書の配列表の部分 第 _____ ページ、
明細書の配列表の部分 第 _____ ページ、
出願時に提出されたもの
国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
_____ 付の書簡と共に提出されたもの

2. 上記の出願書類の言語は、下記に示す場合を除くほか、この国際出願の言語である。

上記の書類は、下記の言語である _____ 語である。

- ☐ 国際調査のために提出されたPCT規則23.1(b)という翻訳文の言語
☐ PCT規則48.3(b)という国際公開の言語
☐ 国際予備審査のために提出されたPCT規則55.2または55.3という翻訳文の言語

3. この国際出願は、ヌクレオチド又はアミノ酸配列を含んでおり、次の配列表に基づき国際予備審査報告を行った。

- ☐ この国際出願に含まれる書面による配列表
☐ この国際出願と共に提出された磁気ディスクによる配列表
☐ 出願後に、この国際予備審査(または調査)機関に提出された書面による配列表
☐ 出願後に、この国際予備審査(または調査)機関に提出された磁気ディスクによる配列表
☐ 出願後に提出した書面による配列表が出願時における国際出願の開示の範囲を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった
☐ 書面による配列表に記載した配列と磁気ディスクによる配列表に記載した配列が同一である旨の陳述書の提出があった。

4. 補正により、下記の書類が削除された。

- ☐ 明細書 第 _____ ページ
☒ 請求の範囲 第 4-6, 11-13 項
☐ 図面 図面の第 _____ ページ/図

5. ☐ この国際予備審査報告は、補充欄に示したように、補正が出願時における開示の範囲を越えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c) この補正を含む差し替え用紙は上記1.における判断の際に考慮しなければならない、本報告に添付する。)

V. 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条（PCT35条(2)）に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	1-3, 7-10, 14-22	有
	請求の範囲		無
進歩性 (IS)	請求の範囲	1-3, 7-10, 14-22	有
	請求の範囲		無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	1-3, 7-10, 14-22	有
	請求の範囲		無

2. 文献及び説明 (PCT規則70.7)

文献1 : JP 2001-91830 A (キヤノン株式会社) 2001.04.06、全文、全図
(ファミリーなし)

文献2 : JP 11-237551 A (松下電器産業株式会社) 1999.08.31、全文、全図
(ファミリーなし)

文献3 : JP 2001-305426 A (ソニー株式会社) 2001.10.31、全文、全図
(ファミリーなし)

請求の範囲1乃至3、7乃至10、14乃至22について

文献1乃至文献3には、独立形式である請求の範囲1、14に特定の、物体側から順に、正の屈折力を有する第1レンズ群、負の屈折力を有する第2レンズ群、正の屈折力を有する第3レンズ群、正の屈折力を有する第4レンズ群から構成され、広角端から望遠端への変倍に際して、前記第2レンズ群が光軸上の移動し、前記第2レンズ群の移動及び物体の移動に伴って変動する像面の位置の一定の位置に保つように前記第4レンズ群を光軸上を移動するようにし、前記第1レンズ群は、物体側から像側に向かって順に、負レンズ、正レンズ、正レンズからなり、前記第2レンズ群は、物体側から像側に向かって順に、負メネスカスレンズ、負レンズ、両凸正レンズ、負レンズからなり、前記第3レンズ群は、物体側から像側に向かって順に、正レンズ、正レンズ、負レンズから構成されているズームレンズにおいて、条件(5)あるいは条件(6)のいずれかを満足する点が記載されてなく、また、前記条件(5)あるいは条件(6)のいずれかを満足する点は当業者にとって自明な事項であるとはいえず、請求の範囲1乃至3、7乃至10、14乃至22に記載の発明は、前記文献1乃至文献3に対して、新規性を有し、また、進歩性を有する。

Ⅶ. 国際出願に対する意見

請求の範囲、明細書及び図面の明瞭性又は請求の範囲の明細書による十分な裏付についての意見を次に示す。

請求の範囲 1、14 の記載では、第 3 レンズ群は、正の屈折力を有するレンズと、正の屈折力を有するレンズと、負の屈折力を有するレンズとからなり、全体として正の屈折力を有し、変倍時及び合焦時に光軸方向に対して固定される第 3 レンズ群であって、さらに、接合面が像側に凸面を向けた接合レンズを含み、と特定しているが、第 2 の実施の形態、実施例 3 のものは、第 3 レンズ群には接合レンズを含んでおらず、請求の範囲 1 に記載の発明に属しておらず、整合していない。

なお、前記実施の形態、実施例の記載事項を明細書の開示情報として残しておくこと自体は必ずしも妨げるものではないが、本発明に属さない実施の形態、実施例あるいは参考例等、本発明に属さない点を担保する何らかの特定事項を明示しておくことが望ましい。